

## 21. イエスとエリヤの再臨実相比較

イエスとエリヤがどんな関係があるのか。路程が似ているから。イエスは再臨するといわれるが、どうやるのか。旧約の人物で再臨した人物がエリヤである。

**マラキ 4 : 5~6**

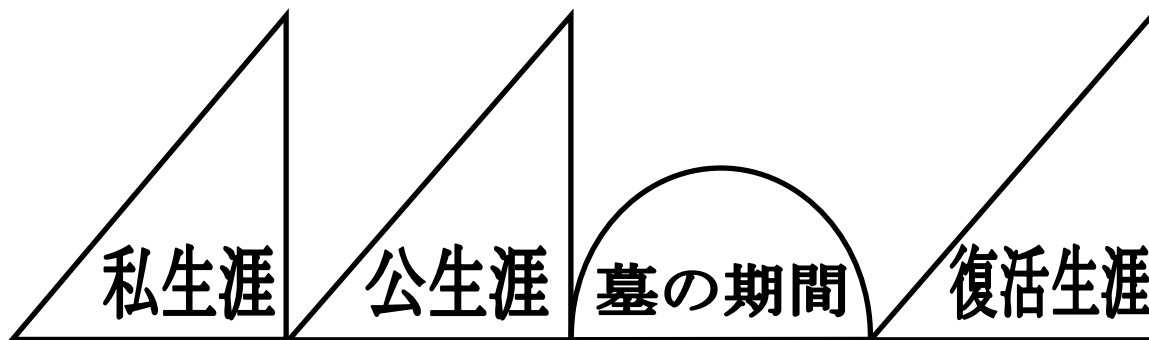
預言者エリヤを遣わす。

エリヤ→マラキ→イエス

500年 400年

エリヤに肉体は無いから誰かに霊が再臨する。

昇天↑



人物	私生涯	公生涯 (3年半)	墓の期間	復活生涯	後継者
エリヤ		カルメル山の大勝利 アハブ王→ザレパテ →アハブ王	自暴自棄	40日	エリシャ
イエス		十字架の勝利 エルサレム→ガリラ ヤ→エルサレム サマリヤ		40日	パウロ

<エリヤの路程>

**列王記上 17 : 1~16**

アハブ王→ザレパテのやもめ女

**列王記上 18 : 1~2**

ザレパテ→アハブ王

**列王記上 18 : 17~24**

バアル・アシラ預言者との焼肉対決申し込み。

**列王記上 18 : 25~40**

焼肉対決に勝利し、民の離れた心を神様に戻すのがエリヤの使命。

**列王記上 19 : 1~8**

イゼベル激怒し、エリヤを殺すと脅した。勝利の後の自暴自棄。勝利してその後油断しているとき、サタンが狙う。奪われるときはあっという間。上るより転落は早い。

**列王記上 19 : 9~18**

エリヤの復活生涯。エリシャを見つけて後継者に。

**列王記下 2 : 9~14**

火の車と火の馬があらわれて、つむじ風によって天にのぼった→エリヤの死の独特の表現

**ルカによる福音書 1 : 13~17**

エリヤの霊がバプテスマのヨハネに臨んだ。エリヤは民の心を神様に向けさせる使命だったが、バプテスマのヨハネも同じ。再臨は心情と使命が合致するものにする。

## ルカによる福音書 3 : 1~6

二人は主の道をまっすぐにする使命を持っていた。飛行機の滑走路が荒地だと着陸できない。

<イエスの路程>

### イザヤ 7 : 14

おとめがみごもって男の子を産む。→人間の女から生まれる。

### ルカによる福音書 1 : 26~27

マリアから生まれた。

### ルカによる福音書 2 : 41~52

私生涯に関してはあまり描かれていない。イエスは小さいころから賢かったが、両親はイエスをメシアだとは思ってはいなかった。

### ヘブル人への手紙 5 : 7~10

肉の生活の時は激しい叫びと涙。中心人物の私生涯は厳しい。

### ルカによる福音書 3 : 23

30歳くらいでW伝えだす。

### ヨハネによる福音書 7 : 15

人々は大工の子イエスが聖書に詳しいから躓いた。

### マルコによる福音書 3 : 31~35

イエスは自分の家族から止められたこともあった。イエスの家族もイエスと共に、働く人ではなかった。

### ヨハネによる福音書 7 : 1 p.148

イエスはエルサレムに行ったが、命を狙われてガリラヤやサマリヤなどの異邦の地に避難。エリヤがアハブ王からザレパテに避難し、異邦の歴史が起こったのと同じ。

### ルカによる福音書 10 : 30~37

隣人サマリヤ人の話。

### マタイによる福音書 16 : 21~23

イエス再びエルサレムへ。ペテロの無知にイエスが働いた。

### ヨハネによる福音書 19 : 30

ここでは終わったとあるが、聖書原本では勝利を収めたと言った。霊的にサタンに勝利した。

## 【墓の期間】

### ペテロの第一の手紙 3 : 19~20

ノアに聞き従わなかった人々がいた黄泉の世界に行って福音が伝えられた。

### マタイによる福音書 26 : 55~56

弟子は逃げてしまった。弟子たちの信仰は眠っていたので山でも寝てしまった。

### マタイによる福音書 27 : 51~52

イエスの復活。地震は霊的な地震。十字架につけられたイエスを見て本当にこんなにあっけなく死んでしまうのかと躓き、また一方で、十字架でイエスの愛を感じ、信仰がゆれた。

### 使徒行伝 1 : 3~5

復活生涯を3年半過ごした。

### 使徒行伝 9 : 1~22

パウロを後継者に

サウロ (迫害王) →パウロ (伝道王)

目からうろこが落ちた→霊的盲目が解けた。

### 使徒行伝 1 : 6~11

あなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。

※イエスはエリヤ同様、同じ心情をもって、やり残したことを成し遂げてくれる人に再臨する。